

ジャガイモと映画 (28)

<でん粉 (1)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさま かずお
浅間 和夫

96. 幸福の黄色いハンカチ

1977年、邦画。監督：山田洋次。

失恋してヤケになった花田欽也（武田鉄矢）は工場を突然退職し、真っ赤なファミリア（4代目のFRファミリア）を購入し、フェリーに乗って釧路に入り、網走へと北上する。そこでナンパして純情な朱美（桃井かおり）とドライブを始める。一方、網走刑務所からは、刑期を終えた元炭鉱夫の島勇作（高倉健）が出所してくる。最初の食堂で「ビールください」と頼んだ後、「あの～醤油ラーメンとカツ丼下さい」と注文してから、久しぶりのコップ1杯を両手で握りしめ一気に飲む（写真：注文したもののイメージ。毛魔王さん提供）。



シャバで初ラーメン食べる

海岸で3人が出会い、安宿に一夜。欽也は夜這いを挑むが拒絶されてしまう。翌朝、

勇作が突然「夕張に行く」と言い出すが、理由を語らない。そんな勇作を欽也と朱美は不審がるが、とりあえず進路変更し、クルマを進めていく。途中、ひょんなことから勇作がハンドルを握ることになるが、運悪く検問にひっかかってしまう。免許提示を求められた勇作は静かに「持っていません」と答える。そして「昨日、網走刑務所から出たばかりです。罪名：殺人」と告白する。不器用で、酔った喧嘩のいざこざから人を殺めてしまい、「俺があいつにしてやれることはそれだけだ」と妻・光枝（倍賞千恵子）に離婚届をだしていた。未練の残る彼は、夕張の自宅に「もし、まだ一人暮らしで俺を待っているなら鯉のぼりの竿に黄色いハンカチを下げておいてくれ」の葉書を送っていた。勇作の想いに胸を打たれた欽也と朱美は、夕張まで同行することとなり、そこで優しい<幸福一杯>の黄色の布を目の当たりにする…

この映画を選んだのは、刑務所から出て最初にラーメンを食べるシーンのために高倉健が2日間水だけを飲み、絶食したと知ったからである。ラーメンは日本人によく食べられ、したがって映画にもしばしば出てくる。

北海道産ジャガイモの一番の用途は、野菜として食べるものでも、ポテトチップス

になるものでもなく、でん粉（片栗粉）用なのである。マーボー豆腐。あんかけ焼きそば、酢豚などの料理のとりみづけが分かりやすい使い方であるが、蒲鉾、竹輪、ソーセージ、ラーメンなどのインスタント麺類などによく使われ、春雨、くずきりやビールの発酵原料となるほか他のでん粉とともに異性化糖、水あめ、ぶどう糖といった糖化製品にも使われている。これらの製品は、清涼飲料水、調味料、パン、菓子類に入り、この映画のような即席麺は勿論、捜せば偽薬（プラシボ）、オブラート、ボーロ、うなぎの餌、酒類、ダンボール、紙などにも使用されているのである。

97. 飢餓海峡

1965年、邦画。監督：内田吐夢。

北海道で生産されるジャガイモの多くはでん粉（片栗粉）になっているが、それが出てくる映画になかなかめぐり会えない。ようやく見たのがこれ、しかし目で確認するのではなく、ジャガイモででん粉工場は舞鶴にあるとの設定の話。水上勉の同名小説を内田吐夢が監督した推理劇。1954（昭和29）年9月26日にあった死者・行方不明者あわせて1,155人と言う日本海難史上最大と言われた洞爺丸遭難と岩内大火を1947年に設定したフィクション映画である。

ジャガイモ一皿5円、スイトン一杯7円の頃の話。27円余りを持参し網走刑務所を仮出所した木島忠吉と沼田八郎そして元仲間の三国連太郎演ずる望洋とした大男犬飼多吉が小樽に近い岩幌（岩内）で質屋の主人を殺して金を奪い放火して函館経由で内地（本州）へと逃亡しようとする。

犬飼がお金をひとり占めするため、現在

の『男爵資料館』に近い函館港七重浜で仲間の2人を殺し、台風で転覆した青函連絡船層雲丸遭難現場に放置し、自分は小舟で青森県下北半島へと逃亡する。そこで情けをかけてやった女性杉戸八重（挿絵左幸子）が男の爪を大切に持っていたため、後日、また殺人を犯さざるを得なくなる。



下北半島で情けをかける犬飼

犬飼は名前を樽見京一郎と変えていた。この大男は「馬鈴薯（いも）俵なら2俵を軽々担ぐ」人で、蝦夷富士の裾俱知安町近くの鉾山のあと地にジャガイモづくりを奨励し、それを300tの運送船「北海丸」で舞鶴に運び、そこに建てた工場いででん粉をとり、このでん粉と魚肉ではんぺん、竹輪を製造して大成功する。樽見京一郎は名士になり、刑余者更正事業資金に多額の寄付をし、市の教育委員にもなっていた。

ある日、昔酌婦の八重は舞鶴で心中と思わせる死体となって発見される。女の懷中からでん粉工場主樽見京一郎が、刑余更生事業資金に三千万円寄贈したという新聞の切り抜きや爪が出て旧悪が露見することになる。戦後の貧困の時期を生きることになった多くの日本人の悲哀が主要な登場人物に投影された映画と言われている。

98. ジャッジ

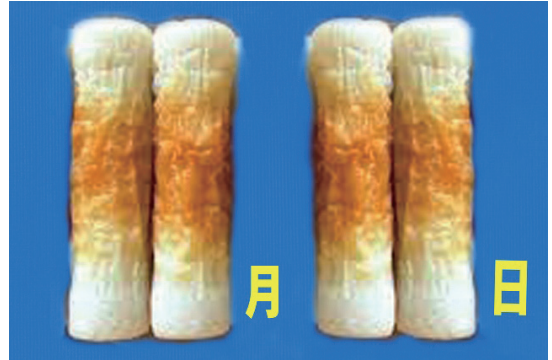
2014年、邦画。監督：永井聡。

世界一のテレビCMを決める広告の祭典、サンタモニカ国際広告祭。若手CMプランナー太田喜一郎（妻夫木聡）は、社内のくせ者上司、大滝一郎（豊川悦司）に審査員を押し付けられ参加することになる。毎夜開かれるパーティに同伴者が必要と知った太田に懇願され、仕事はできるがギャンブル好きの同僚・大田ひかり（北川景子）も“偽の妻”としてイヤイヤながら同行することになる。戸惑う太田は、なぜか審査会に詳しい窓際社員の鏡さん（リリー・フランキー）に怪しげな特訓を受ける。

世界各国の代表が集合し、華やかに審査会が開幕する中、太田は竹輪のCMで賞を獲らなければ「ちくわ堂」をクビになってしまうという、まさかの事実を知る。世界中のクリエイターたちが、やっきになって駆け引きや小芝居を繰り広げる中、ライブル会社のエリート、木沢はるか（鈴木京香）も参戦。太田は持ち前のバカ正直さと、鏡さん直伝の数種類の英語を武器に奔走する。そして、ひかりの助けを借りているうちに、偽夫婦だった二人の距離もしだいに近づき始めて…

『蒲鉾（かまぼこ）』は弥生時代からあったかも知れないが、初めて文献に登場したのが平安時代の1115（永久3）年。祝宴の膳のスケッチがあり、その中に記録されて

いた。そのため、11月15日が『蒲鉾の日』になり、文字の形から11月11日が『竹輪の日』とされた（写真）。



11月11日は竹輪の日

蒲鉾や竹輪は、水産練り製品の一つであり、これにはジャガイモでん粉が使われている。ジャガイモでん粉は、他のでん粉と比べ、比較的低温で糊化し、わらびやくずのでん粉よりも粘度が高く、透明な糊になる特徴があるので、東日本以北を中心に良く使われている。似たものに、はんぺんやさつま揚げもあり、これらの原料魚にはタラ、サメ、ホッケ、エソ、ソイ、イトヨリダイ、トビウオ、タチウオ、ベラ類等の白身魚が使用される。小田原蒲鉾ではクズが主原料であり、魚の美味しさと良質なタンパク質をそのまま凝縮し、食べやすくし保存性を増したものであり、ジャガイモでん粉が使われるようになってから、粘度やプリプリ感が向上した。